



## 実践団体・プラン基本情報

必要に応じてセル(表の枠)の高さを調整していただいて構いません。

ただし「実践団体・プラン基本情報」全体で4ページ以内に収めてください。

### 実践団体の基本情報

記入日	西暦 2026 年 1 月 16 日 (R7 年度のチャレンジプラン)
プラン名	地域と連携した家畜動物の避難システムの構築
実践団体名	栃木県立矢板高等学校 農業技術部畜産班
代表者名	校長 石下 英和
電話番号	0287-43-1231
メールアドレス	saga-s01@tochigi-edu.ed.jp
実践団体の説明 団体の来歴や特徴などを書いてください	本校は栃木県の北部・高原山の麓に位置し、広大な放牧場など恵まれた自然環境の中で農業教育を行っている。農業技術部は、農業経営科における課題研究などの活動を深化させるために設立。授業外の部活動として、地域貢献や研究発表などに取り組んでいる。
所属メンバー お名前やご所属、役割などを差し支えない範囲で書いてください	(代表) 校長 石下 英和 (担当) 教諭 嵯峨 俊介 (生徒) 3年生 8名・2年生 8名
活動の本拠地 団体の事務所の所在地や居住地など記入してください。正確な住所でなく「〇〇校区・〇〇自治会」などでも構いませんが、少なくとも「〇〇都道府県〇〇市町村」などの自治体名は入れてください。	栃木県矢板市
活動開始時期・結成時期	2022 年～
過去の活動履歴・受賞歴 これまで行ってきた活動や受賞歴(チャレンジプラン以外も含む)をご記入ください	2023 年 第 2 回高校生食の SDGs アクションプランコンテスト最優秀賞 " 第 9 回全国 U-17 環境活動発表大会最優秀賞(環境大臣賞) 2024 年 フェスティバルアワード 2024 アイレブ部門 GOLD " 栃木県学校農業クラブ各種発表大会ポスターコンテスト Ⅲ 類最優秀賞 " 地域活性化策コンテスト田舎力甲子園 2024 最優秀賞 " 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」特別賞 2025 年 全国高校生農業アクション大賞第 7 回大賞 等



## プランの基本情報

<p>プランでの実践主体</p> <p>プランを実践した人の主な属性</p> <p><b>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</b></p>	<p>1. 学校・教育関係 4. 地域組織 5. 国・地方公共団体</p> <p>7. 企業・産業関係 8. ボランティア 9. NPO</p> <p>11. 職業・職能団体 12. 学術組織</p> <p>13. 個人 14. その他（具体的に：農業関係者）</p>
<p>プランの運営側の人数（実数）</p>	<p>約17人</p>
<p>プランの活動地域</p> <p>今回のプランで活動をした地域を記入してください。正確な住所でなく「〇〇校区・〇〇自治会」などでも構いませんが、少なくとも「〇〇都道府県〇〇市町村」などの自治体名は入れてください。オンラインによる全国発信・世界発信などがある場合には、その旨も書いてください。</p>	<p>栃木県矢板市、塩谷町、高根沢町</p> <p>映像や配布物等による全国発信</p>
<p>プランの防災教育の対象者</p> <p>防災教育の対象者の主な属性</p> <p><b>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</b></p>	<p>3. 小学生（低学年） 4. 小学生（中学年）</p> <p>5. 小学生（高学年） 6. 中学生 7. 高校生 8. 大学生</p> <p>10. 教職員・保育士等 12. 地域住民 13. 企業・組織</p> <p>17. 高齢者 19. 防災関係者 20. 全ての人々</p> <p>21. その他（具体的に：農業関係者）</p>
<p>防災教育の対象者の人数（実数）</p>	<p>約 880人</p>
<p>プランが対象とする災害</p> <p>プランが対象とする災害</p> <p><b>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</b></p>	<p>1. 地震 2. 津波 3. 風水害 4. 土砂災害 5. 火山噴火</p> <p>9. 災害全般</p> <p>10. その他（具体的に：家畜避難が必要な人災も想定）</p>
<p>プランの活動目的</p> <p>プランの主な活動目的</p> <p><b>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</b></p>	<p>1. 防災意識を高める 2. 災害を想定した訓練</p> <p>3. 防災に関する知識を深める 5. 災害を疑似体験</p> <p>6. 災害に強い地域をつくる 7. 災害対応能力の育成</p> <p>8. 防災に役立つ資料・材料づくり</p> <p>9. 防災に関する技術の習得</p> <p>10. その他（具体的に：政策提言）</p>
<p>対象者が身につく知識・技能等</p> <p>プランの対象者が身につけることができる知識・技能等</p> <p><b>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</b></p>	<p>1. 地震・津波・火山災害 2. 気象災害</p> <p>3. 災害時に発生する課題・影響</p> <p>4. 過去の教訓が教える対応策</p> <p>5. 起こりうる災害の地図等による可視化</p>



	6. 平時に行う被害を出さないための備え 7. 災害発生時に身の安全を確保するための行動 8. 災害対応・復旧・復興時の立ち直りに向けた助け合い
プランの活動形態 プランの主な活動形態 <b>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</b>	1. イベント・行事 2. 講習会・学習会・ワークショップ 5. 教科 6. 特別活動 9. 放課後の部活動(サークル)等 13. 避難・防災訓練 14. 研究 17. その他(具体的に: 地域連携・地域貢献)
プランでの連携先 プランで連携した相手の属性 <b>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。いない場合には「いない」を残してください</b>	1. 学校・教育関係 7. それ以外の地域組織 8. 国・地方公共団体 10. 企業・産業関係 11. ボランティア 12. NPO 14. 職業・職能団体 15. 学術組織 16. 個人 17. その他(具体的に: 農業関係者)
実践にかかった金額 チャレンジプラン予算額に関わらず実践でかかった費用の総額をご記入ください 具体的金額を記入するか、選択肢から <b>該当しないものを削除し該当するものを1つ残す</b>	30万円未満

### プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	避難訓練打ち合わせ	避難訓練準備	家畜避難所整備
5月	実施後の検証と分析		第2回避難訓練
6月	農家プロファイリング	避難所環境調査	避難放牧の実施
7月	備蓄飼料の検討		避難牛のストレスチェック
8月			備蓄飼料製造・環境調査
9月	防災イベント打ち合わせ		学会参加・中間報告会
10月	避難場所整備	防災イベント準備	農家プロファイリング①
11月	(給水設備)	避難訓練準備	農家プロファイリング②
12月	備蓄飼料の検討	未利用資源調査	外部での成果発表
1月	実施後の検証と分析	ヒアリング依頼	第3回避難訓練
2月	専門家へのヒアリング	避難所環境調査	ヒアリング調査
3月			備蓄飼料製造



## 実践したプランの内容

**必要に応じてセル（表の枠）の高さを調整していただいて構いません。**

**複数の実践についても、該当するセル内に簡潔にまとめて記載してください。写真や図表等を入れてもかまいません。ただし「実践したプランの内容」全体で10ページ以内に収めてください。**

<p>プラン全体の概要</p> <p>どのような目的のプランか、どのような方法でどのような成果が得られたのかについて、200字～600字程度で記載してください。</p> <p>写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。</p>	<p>大きな災害時に、家畜動物が取り残されている（農家も避難できない）という報道が多いことから、家畜動物避難のプロトタイプを構築することが目的である。</p> <p>被災による農家（特に畜産業）の廃業や地域の衰退を食い止めるために、フェーズフリー性の高い放牧場を家畜動物の緊急避難場所として整備・発信し、農家の防災意識向上へと繋げる。また、避難訓練などを重ねることによって「家畜動物だって避難するんだ。では、私たちは？」という新しい価値観を発信することで、地域全体の防災意識を高め、災害に負けない農山村社会の構築にも貢献していきたい。</p>  <p>希望の牧場よしざわ 提供</p>
---	--

<p>プランの「チャレンジ」の結果</p> <p>プランにおいて「何がチャレンジ」なのか、1年間の活動でそのチャレンジがどのような結果・成果を生み出したかについて、200字～600字程度で記載してください。</p> <p>写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。</p>	<p>2024年に初めて行った避難訓練をブラッシュアップし、2回目となる家畜動物対象の避難訓練を実施した。</p> <p>行政機関や地元JA協力のもと、今回は動物行動学の専門家にもご協力いただき、実際の放牧とICTタグによる牛の行動モニタリングや、血液検査によるストレスチェックまで実施。牛の目線になって様々な工夫をする</p> 
--	---



	<p>ことで、昨年の 1 回目よりもスムーズ且つ有事に即した避難を実現することができた。</p> <p>また、過去 2 回の避難訓練や避難場所である放牧場整備についてまとめたパンフレットを作成。関係機関各所への配布により、地域全体の防災意識向上にも繋がられた。</p>
--	--

<p><b>実践内容・方法・成果</b></p> <p>これを読んだ人が同様の活動を行えるように具体的に詳しく書いてください。どのような成果が得られたのかについてもまとめてください。写真や図表を入れても構いません。</p> <p>このセルの字数制限、写真・図表枚数制限はありませんが、「実践したプランの内容」全体で 10 ページ以内に収めてください。</p> <p>実践が複数になる場合には、それぞれについてこのセル内に簡潔にまとめて記載してください。</p>	<p>東京ドームとほぼ同じ面積（4.8ha）の放牧場で、普段は繁殖牛 10 頭程度が牧草を食べ健康的に暮らす。ここを有事の際には、地域の家畜動物を受け入れる避難場所に整備している。感染症対策や事故防止のためにゾーン分けをし、付近の安全な沢水や備蓄飼料も整備したため、断水や停電時、草がなくなる冬季間でも問題はない。</p> <p>基本的には、強固な囲いの中で、牧草や雑草など最低限の維持管理をしている現状に、水源を確保するだけで避難場所としての運用ができる。運搬車両ごと入場できるゲートや感染症対策となる仕切り柵も既に整備した。あとは、安全性を担保・可視化するための、牧草の放射線量や水質検査などの定量データを常時把握できていれば、緊急時に安心して避難放牧ができると考えている。</p> <p>人命第一の観点から、非常時の家畜動物の扱いは、二次被害に繋がってしまうのではないかと考えたが、大規模災害が起こるたびに多くの家畜の命が奪われ、廃業を余儀なくされる報道を目の当たりにし、社会全体で対策を考える必要があると感じた。フェーズフリーアワード 2024 gold 受賞や全国規模のニュースで取り上げていただいたことがきっかけで、社会にインパクトを与えらるという大きな成果を得られている。</p> <div data-bbox="1018 1568 1436 1948"><p>大災害家畜も避難させねば</p><p>「東日本や熊本地震」に学んだ事例</p><p>矢板高生、農家との訓練取り組む</p><p>場所？ 搬送車</p><p>課題だらけ</p></div>
--	---



プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。

該当するものについて具体的な例を挙げながら記入をしてください。

**この項目は任意項目であり、全てを埋める必要はありません。当てはまるもののみ記入してください。**

1. 【準備段階】 <u>運営側の担当者を決める際の工夫</u> 例：役割分担を明確にした	学校（生徒）が主体となっていくが、実際の有事において難しいもの（例：家畜運搬・農家への連絡等）はJAや行政に依頼し、運営側に加わっていただいた。
2. 【準備段階】 <u>地域のキーパーソンと連携する際の工夫</u> 例：自治会と連携をした	産学官民全てと連携し、家畜動物避難を多面的な視野で捉えるように心掛けた。
3. 【準備段階】 <u>運営側を組織化する際の工夫</u> 例：協議会を作った	協議会とまではいかないが、学校を中心に家畜防災に取り組む大きな環ができている。
4. 【準備段階】 <u>対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫</u> 例：活動範囲を限定した	まずは地域内で実践を重ねられるように、JAしおのや（1市・2町）管内を対象に取り組んでいる。
5. 【準備段階】 <u>準備時間を確保する際の工夫</u> 例：定例の打ち合わせを設けた	
6. 【準備段階】 <u>活動場所を確保する際の工夫</u> 例：公民館などを無料で使用した	行政を巻き込んだことで、公営の放牧場での試験放牧などができるようになった。
7. 【準備段階】 <u>活動資金を確保する際の工夫</u> 例：自治体の助成金に応募した	環境活動や防災活動等、様々な助成金を併用させていただいている。
8. 【準備段階】 <u>知識や情報を収集する際の工夫</u> 例：専門家による勉強会を開いた	前例がない取り組みのため、農村防災や家畜行動学など、関連しそうな専門家に監修を依頼し、助言などをいただいた。
9. 【準備段階】 <u>教育・訓練プログラムや教材を作成する際の工夫</u>	対象である農家や家畜だけに捉われることなく、実施主体である生徒の視点も大事にすることで、よりストーリー性が伝わるように工夫をした。



例：web サイトを引用した	
10. 【実行段階】 <u>経験豊富なアドバイザーを確保する際の工夫</u> 例：実行委員に助言を求めた	
11. 【実行段階】 <u>地域の理解を得て関係機関と連携する際の工夫</u> 例：行政・自治会等と共催した	行政機関（栃木県農政部）に後援申請を行ったり、JA のや肥育部会・繁殖部会総会に参加して説明するなどを行った。
12. 【実行段階】 <u>活動時間を確保する際の工夫</u> 例：総合学習の時間に実施した	授業内で行えないものは、放課後や土日など課題活動として実施している。
13. 【実行段階】 <u>活動経費をなるべく抑える際の工夫</u> 例：必要物品を消防署から借りた	備蓄飼料製造には身近な未利用資源の活用、避難場所の整備にはなるべくセルフビルドにするなど、有事に即した活動を心掛けているため、自ずと経費削減になっている。
14. 【実行段階】 <u>他の実践団体と交流する際の工夫</u> 例：中間報告会でプログラムを紹介してもらい共有した	中間報告会の動画を生徒にも視聴させ、他団体の視点を少しでも取り入れるように工夫した。
15. 【継続段階】 <u>後任者を育成する際の工夫</u> 例：若手を入れた	2年生の有志も巻き込んでいるため、次年度以降も活動を継続させていきたい。
16. 【継続段階】 <u>活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫</u> 例：引き継ぎ書を作った	成果報告と普及啓発を兼ねたパンフレットの作成を行った。
17. 【継続段階】 <u>活動の成果を外部に発信する際の工夫</u> 例：web サイトで発信した	様々な研究発表会・学会での発信並びに農林水産省訪問など、社会に一石を投じることを目標に取り組んだ。
18. 【継続段階】 <u>活動内容を見直す際の工夫</u> 例：振り返りの会を開催した	専門家からの助言を参考に、避難訓練毎に計画の再構築を行っている。



<p><b>今後の活動予定・今後の展開</b></p> <p>今後の活動予定や、このプランの今後の展開について、200字～600字程度で記載してください。</p> <p>写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。</p>	<p>避難訓練を継続しながら、様々なデータの検証や分析を重ね、社会に還元できるようにブラッシュアップさせたい。</p> <p>また、家畜動物の避難訓練を通して、地域全体の防災意識を高めることが目的のため、地域住民にPRする活動をさらに展開させたい。具体的には、地域の子どもたちを避難場所である放牧場に招き、様々なアクティビティを実施したり、避難訓練そのものに参加してもらう。その過程で「家畜だって避難する。では、私たちは？」という問いを多くの住民に投げかけていきたい。</p> 
--	---

**この項目は任意項目です。当てはまるものがあれば記入してください。**

<p><b>その他（PRポイントなど）</b></p> <p>これまでのセルで書けなかった内容などについてもしあれば記載してください。</p>	<p>チャレンジプラン助成により実施した今年度の活動は、以下の報道機関で取り上げていただき、視聴者などからも多数の問い合わせがあった。</p> <p>TBS 全国ニュース・NHK 北関東ネットワーク・とちぎテレビブニング6・朝日新聞・読売新聞・下野新聞</p>
---	--

**チャレンジプランを実践しての感想・実行委員会等へのご意見**

**この項目は審査対象になりません。**

**任意項目ですので、当てはまるものがあれば記入してください。**

<p><b>チャレンジプランを実践しての感想・想い</b></p> <p>チャレンジプランを実践して、どのような感想・想いがありますか。率直なお気持ちなどを教えてください。</p>	<p>「防災教育をやる余裕などない」前任校の管理職に言われた言葉である。専門高校であることや財源がないことが理由ではあったが、確かに優先順位は高くはないとその時は納得してしまった。しかし、今回チャレンジプランを通じて、防災・減災やレジリエンスこそがESDの根幹なのではないかと強く感じた。世代や立場、環境など異なるバック</p>
--	--



グラウンドでも、どこかで起きた災害を共通の教訓として、「被害の受けにくさ」と「被害を受けた時の回復力」を予測したり、備えたりと、できることは無限にある。どこまでも広がる繋がりも存在する。様々な実践や他校との交流を通して、「動物の命を扱う専門高校だからこそ…財源がないからこそ…防災教育からはじめてみるべきでは」という意識が変わった。子どもだけではなく、大人から地域や社会までをも変容させる防災教育の底力を、私は信じている。